

「バリア・ フラストレイション」 について



エヴァーグリーン・
ドッグ・フィールド
代表 森 一彦



愛犬との散歩の途中で他の犬に出会った場合、大抵の犬は相手の犬に近づいてその素性を知りたいという欲求に駆られます。犬同士はお互いのお尻の匂いを嗅ぎ合うと

トレイションは、鎖に繋がれている犬やフェンス越しにやかましく吠える犬の攻撃性を一層強める原因になります。鎖やフェンスで区切られた縄張りを持つことで、犬の攻撃性を増長させてしまうことは良く言われていますが、鎖やフェンスを取り払って、縄張りの境界をあいまいにするだけでは攻撃性を無くす解決策にはなりません。

この儀式を通じて、相手の情報を得て、相手に服従や恭順の意志を示したり、上下関係をはっきりさせたり、友好関係を深めたりすることも出来るわけです。ですから散歩の途中で他の犬に出会うと、犬はリードを引っ張って相手の犬のところへ行こうとします。興奮状態にある犬を相手の犬から遠ざけようとしてリードを引いた時、愛犬の緊張状態は最高に高くなります。そして犬はリードに繋がれているその状態の時に強い攻撃性を示すのです。

攻撃性を抑制するためには犬同士の社会化トレーニングをやる必要があります。犬を社会化することによって、相手が初めて会う犬でも、たとえ最初は吠えかかったとしても、その後は相手の匂いを嗅ぎ、挨拶し、場合によっては自分から相手に服従したりする姿勢を見せたりもします。金網のフェンスで仕切られたドッグランの内と外で吠えあっている犬同士でも、外の犬をドッグランの中に入れ、それぞれのリードを外してやると、よほどの事が無い限り流血の惨事を招いたりすることはありませぬ。最初は多少乱暴なやり取りは見られるものの、犬同士がいつまでも敵対していることはまれで、やがて落ち着いて、うまく行けば友達同士になることもできるのです。

これは、「飼い主と犬の緊張感がリードを通してお互いに通じ合うからだ」という理由がひとつと、「リードに繋がれている犬は自分の意志で自由に相手との社会的距離を調節できなくなるからだ」という二つの理由が考えられます。このようにリードによって自由な行動を規制されて、犬がいちだちを覚えて

リードがバリア・フラストレイションの原因になるのは、犬が自由に相手に近づく妨げになるだけでは無く、相手から遠ざかろうとする動きまでも阻止してしまうからです。リードで動きを規制された時点で、犬は相手から「逃

げる」という行動が取れなくなり、自分にとって不快な距離に近づいた相手を「威嚇する」という行動を取らざるを得なくなるためです。さらにこの威嚇行動に相手の犬も反応するために悪循環が生まれます。さらに飼い主が犬の行動に腹を立て、犬を叱るために犬の攻撃性は一層強化されることとなります。

他の犬に関心はあっても接し方が分からない犬（特に子犬や、青年期の犬）は、挨拶の仕方や機嫌のとり方が分からずに、過剰に反応したり、上下関係をはっきりさせようとしてやり過ぎてしまったりするのです。この原因は一言でいえば経験不足という事であり、このような行動を矯正するためには、日頃から色々なタイプの犬に接する機会を持つことです。特に良く社会化されている成犬と十分に触れ合う機会を作ってやる事が一番大切です。良く社会化された成犬は、相手がよほど乱暴な行動に出ない限り、子犬や礼儀知らずの青年期の犬にも寛大な態度で接し、犬同士の付き合い方を教えてくれます。



手前みそではありませんが、このような社会化トレーニングの場所を提供できるのが私どものドッグランであると自負しておりますので、見学がてらお出かけください。

遊ぶ 学ぶ かかり合う...Wan倶楽部
Evergreen Dog Field
 ドッグラン・ドッグカフェ・飼い方相談
 福島県郡山市熱海町高玉字抜山1-1 磐梯熱海ICから約6分
 ☎024-994-0811 | エヴァーグリーンドッグフィールド | 検索
 福島県 19郡 保健第21号・訓練第5号 (有) Evergreen Dog Field
 登録年月日 H19年4月6日 有効期限の末日 H24年4月5日 動物取扱責任者 森一彦